

平成22年12月三木市教育委員会（定例会）会議録

◇ 日 時

- 1 開 会 平成22年12月17日（金）午後3時00分
- 2 閉 会 平成22年12月17日（金）午後5時20分

◇ 場 所 三木市役所 5階 大会議室

◇ 会 議

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 前回会議録の承認
- 4 審議事項
議案第26号 平成21年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書について
- 5 その他
- 6 閉 会

◇ 会議に出席した者の職氏名

教育委員	1番	教 育 委 員 長	里 見 俊 實
	2番	教育委員長職務代行者	水 島 慶 子
	3番	教 育 委 員	稲 見 秀 穂
	4番	教 育 委 員	井 口 徹
	5番	教育委員（教育長）	松 本 明 紀
事務局		教 育 部 長	篠 原 政 次
		教育部政策主幹	告 野 幹 也
		教育総務課長	清 水 正 則
		教育環境整備課長	井 上 博 務
		学校教育課長	穂 積 正 則
		文化スポーツ振興課長	松 村 正 和
		教育センター所長	梶 本 佳 照
		図 書 館 長	近 藤 昌 樹
		教育総務課課長補佐	稲 岡 孝 恵
		教 育 総 務 課	西 未 路 雅 恵

傍聴者 0人

◇ 会議内容

1 開 会

里見委員長が、平成22年12月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

2 会議録署名委員の指名

里見委員長が、本日の会議の会議録署名委員に、水島委員長職務代行者と稲見委員を指名した。

3 前回会議録の承認

里見委員長が、平成22年11月定例会及び12月臨時会の会議録の承認について諮り、全員一致で承認された。

4 審議事項

【議案第26号】平成21年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書について

○ 清水教育総務課長が、次のように説明した。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定により、平成21年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書を作成し、市議会へ提出するとともに、公表しようとするものである。

今回提出の報告書（案）は、11月の定例教育委員会で協議いただいた内容を踏まえて所要の修正を加えるとともに、神戸親和女子大学の田寺和徳教授と兵庫教育大学の竺沙知章准教授による学識者評価を追記したものである。

平成20年度事業に係る点検・評価報告書と大きく異なる点は、事業評価について、従来、表形式で様式を定めて記載していたものを記述形式に変更したことである。

このたびの評価については、平成22年度の三木市教育の基本方針に合わせて、①一人一人を大切にすの心の教育、②安全・安心な信頼される学校園づくり、③ライフステー

ジに対応した生涯学習の推進、④教職員の資質と実践的指導力の向上という重点取組等の下に60の事業を位置づけた。

また、外部評価者の評価として、神戸親和女子大学の田寺教授、兵庫教育大学の竺沙准教授の2人から、分かりやすい報告書となっているという評価をいただく一方、学校教育の基本である基礎学力の定着、教育の質の保証といった部分についての評価が記されていないとの指摘を受けた。

(委員) ほとんどの事業について今後の取組が記載されているが、青少年補導委員活動や教育センターで実施している教職員の専門研修講座、就学援助・就園奨励など一部の事業について記載されていないので、これらについては、今後の取組の方向を明記していただきたい。

また、基礎学力の定着に関する取組の記載が必要であるという外部評価者の指摘には同感である。毎日時間をかけて大勢の先生方が子どもたちの教育を行っている。その成果としての学力や体力について、どのように評価するか難しいところであるが、何らかの記述は必要であると考える。

(事務局) 全国学力・学習状況調査で全国平均と同程度であることや、基礎学力定着化事業において全国平均を5ポイント以上上回っている学校もあるという結果等から一定の成果があがっていると評価している。そうした中で、このたびの報告書には、基礎学力の定着のための取組として少人数指導や兵庫型教科担任制の導入などを記載したところである。

しかし、ご指摘のとおりそうした成果を何らかの形で記載する必要があると思うが、どのように記載するかは今後の課題であると考える。

(事務局) 全国学力・学習状況調査については、過度の競争の助長に対する懸念等から、結果の公表は行っていない。

また、三木市では、基礎学力定着化事業として、小学校の算数、国語、中学校の数学、国語に関する調査を隔年で

実施しているが、これも結果の公表は行っていない。この結果の公表については今後検討が必要であるが、教育委員会の点検・評価の中に何らかの形で組み入れられないかと考える。

(委員) 個々の事業の点検・評価も必要であるが、基礎学力の状況やその向上が学校教育の一番大きな目的であるので、そうした部分が記載できるように考えていただきたい。

(委員) 保護者の関心も高い分野であると思う。

(委員) 全国学力・学習状況調査であっても、基礎学力定着化事業であっても国語と算数・数学だけが対象である。それ以外の教科もあることから、それだけで評価することが良いかどうか、また、点数の評価がすべてではないことも考慮する必要があるし、すぐには結論の出せない難しい問題であると思うが、今後、検討いただきたい。

(委員) 本当に数字だけでは計れない。例えば、朝の読書時間により、読書習慣が身につくことで教科書を読む力がつくなど、数字には出ないが結果に現れるものもある。

数字を出さないと皆が納得しないようだが、学力の向上、成果が判断されるのは何も数字だけではない。ただ、そうしたことを報告書に載せて、それで納得していただけるかどうかという思いはある。

(委員) 全国学力・学習状況調査などの結果は、この報告書で行うのか、単独で行うのかという問題もあるが、大きな問題は、どこまで出せるかということであろう。競争心を煽るということや、国語、算数・数学だけが学校教育のすべてではないという大きな問題もあり、これは、今後別の機会に議論する必要がある。

(委員) 私も同じような思いがある。

たまたま、きょう聞いた話であるが、小規模学校で子ど

もたちが和気藹々と仲良くやっているのは良いことだが、やはり人数が少ないためスポーツにしても、皆がレギュラーになれてしまい競争しないといった話があった。

数字だけでは現せないということも確かにあるが、この点検・評価報告書にも客観的な、数値の裏づけのようなものがもう少し必要ではないかという思いもある。

(委員) 同じ中学校である学年だけが随分成績が良かったとしても、その学年にすごく良い教育をしていたかといえ、一概にそういえない場合もある。

それから、大規模校に特別な教育を行っているということではないが競争のあるところはそれだけの評価が出てくると私も感じている。良いことではないが、小規模校と大規模校とでは差があることは否めないと思う。

(委員) 以前にも申し上げたことがあるが、競争については、生徒が競争するのではなく、教える先生が競争するような取組が必要である。

(委員) きょう、新聞で別所小学校の豆腐作りの記事を見た。大豆を作るだけでなく、それを使って豆腐作りまでやると、豆というものがより良く分かると思うので良い学習であったと感じている。

自分がこんなことをやりたいというものを、しっかり持って取り組めば、そのことがすごく自信になり、他のことにもうまく取り組める力となっていくのかなという思いがある。

(委員) 基礎学力、教育の質について記載することは必要だが、いろいろと検討の必要な課題もあることから次回の報告書に向けて引き続き検討することとし、今回の報告書は、冒頭に出た、一部の事業に関して今後の取組方向を記述するという修正をお願いすることとしてはどうか。

(事務局) 教育の成果は、数的なものだけではないことは十分

承知するが、一方で、十分な説明のためには数的なものも必要であると考える。

里見委員長が、議案第26号について採決を行い、全員一致で一部原案の修正を行うことで可決された。

5 その他

(1) 協議事項

里見委員長が、協議事項11「平成23年度三木市教育の基本方針（社会教育関連部分）について」は、意思決定過程の案件であることから、秘密会により、日程の最後に協議することを諮り、全員一致で同意された。

(2) 報告事項

ア 幼稚園の休園について

- 清水教育総務課長が次のように報告した。

志染幼稚園及び星陽幼稚園については、それぞれ、来年度の5歳児の入園希望者数が3人及び2人となり、三木市立幼稚園教育環境整備方針の4の(1)に定める「統合園開始目標年度までに園児数が5人以下となる園」に該当する見込みとなったため、平成23年度は休園することとした。

これら2園の園児については、通園バスを措置し、三木幼稚園に通園していただくこととする。

イ 学校教育課の主要行事等について

- 穂積学校教育課長が次のように報告した。

第9回定例校園長会を12月7日に開催し、綱紀肅正及び服務規律の確保等について周知した。

主要な実施工事としては、第4回の同和教育伝承講座と第2回の管理職人権研修会を兼ねて12月2日に小野工業高等学校の坂本三好校長先生に講演をお願いするとともに、12月5日の総合隣保館文化祭での人権エンタメ集団の中倉茂樹氏の講演を第3回管理職人権研修とした。そのほか、三木市小学校連合音楽会を11月26日に開催した。

また、今後の予定として、12月20日に幼稚園、24日に小・中・特別支援学校の終業式が行われるほか、1月11日に幼稚園、1月7日に小・中・特別支援学校の3学期始業式が行われる。

そのほか、平成23年度の入学式、入園式については、幼稚園が4月12日、小学校が4月11日、中学校、特別支援学校が4月8日の計画である。

ウ 平成23年度幼稚園入園予定児数及びクラス予定数について

○ 穂積学校教育課長が次のように報告した。

先に、清水教育総務課長から報告のあったとおり、志染幼稚園及び星陽幼稚園が来年度休園となることから、11園となる。

12月16日現在の平成23年度の幼稚園入園予定児数とクラス予定数は、4歳児が204人、10クラスとなり、平成22年度と比べ3人、1クラス減となる見込みである。また、5歳児は240人、12クラスとなり、34人、1クラス減になる見込みである。

エ 平成23年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領(案)について

○ 穂積学校教育課長が次のように報告した。

平成23年度全国学力・学習状況調査は、本年度と同様に抽出方式で行うこととなった。そこで、三木市では、抽出調査対象校以外の学校についての希望利用は行わないこととする。

なお、抽出調査は、平成23年4月19日火曜日に実施されることになっている。

抽出校以外の希望利用を行わないとした理由は、三木市独自で基礎学力定着化事業として、小・中学校の全児童生徒を対象に、国語又は算数・数学の学力テストをそれぞれ隔年で実施しているためである。

これまでから、この学力テストの結果を分析し、成果と課題をまとめ、次年度の教育指導の充実や学習状況の改善

に活用しており、今後も、この基礎学力定着化事業を中心に学力の定着状況の把握及び改善を図っていこうということである。

(委員) 三木市の抽出校は何校か。

(事務局) 平成23年度は未定であるが、平成22年度は、小学校が16校中3校、中学校が8校中2校であった。

(委員) それであれば、抽出校の調査も止めればどうか。

2校や3校を調査しても利用価値は見込めない。三木市では調査は必要ありませんと言うべきである。この程度の調査校数では、統計的な価値も評価できない。

それでも調査を行うというメリットが三木市にあるか。

(事務局) 全国的な状況と、県の状況がどうであるかという比較はできるが、市の全体的な状況は把握できず市にはメリットはない。

(委員) 希望利用校の分析等には経費も労力も必要になる。

(委員) 本当に必要であれば、全国一斉に実施すべきであると思っている。

(委員) 抽出校の調査については、確かに、三木市だけが止めるということは難しいだろうが、言うべきことは言っておく必要がある。

結論は別の機会を設けてしっかり議論して出す必要があるが、こうした意向は伝えておいてほしい。

オ 教育センター・青少年センターの主要行事等について

○ 梶本教育センター所長が次のように報告した。

11月15日から19日までの間、教育センターでトライやる・ウィークの生徒4人を受け入れ、中高年コンピュータ教室の補助等の業務に就いてもらった。

子どもたちからは、最初は受講生に対してどのように話しかけて良いのか不安であったが、受講生からありがとうと言われて大変嬉しく思い、次に尋ねられたら、もっと分かりやすく答えようと思ったなどの感想があった。

青少年センター事業では、補導委員4人が県のこうのとりの賞を受賞した。11月23日に西脇市で開催された授賞式に出席した。

今後の予定として、12月25日から28日まで、年末特別補導を実施する。

カ 図書館の主要行事等について

- 近藤図書館長が次のように報告した。

身近な図書館として、より多くの方々に図書館を知っていただくために、11月20日に吉川図書館で落語ライブを実施した。

また、ボランティアグループの協力を得て、吉川図書館開館1周年記念イベントを11月28日に実施した。

キ 吉川図書館開館後1年間の利用状況について

- 近藤図書館長が次のように報告した。

図書貸出冊数は133,000冊、延べ貸出利用者数は29,900人、吉川町の人口1人当り年間貸出冊数は15.4冊となり、開館前の1年間と比べて、それぞれ4.6から4.7倍となった。

年間133,000冊の貸出冊数は、吉川町の人口と同規模である人口8千人から1万人の自治体と比較すると、45館中の2番目に相当する。

また、1人当り貸出冊数は、兵庫県内の平均7.1冊の2.2倍となっている。

地域別貸出冊数の割合は旧三木市が11パーセント、旧吉川町が75パーセント、他市町が14パーセントとなり、開館前の旧吉川町91パーセントと比較すると、より広い地域から利用されるようになった。

小学校区別の貸出冊数では、口吉川小学校区の利用者が910人から6,982人に伸びたことが特徴的である。

年齢別貸出冊数では、50歳代から60歳代の利用で7倍を超える伸びを示しているほか、人数は少ないが、16歳から18歳までの層で10倍に伸びた。

ク 文化スポーツ振興課の主要行事等について

○ 松村文化スポーツ振興課長が次のように報告した。

平成23年1月9日に三木市成人式を開催するほか、1月24日に小学校6年生を対象とした、劇団四季の舞台鑑賞「子どもたちの芸術鑑賞事業」を予定している。

(3) 次回定例教育委員会の開催日時について

里見委員長が、次回の定例教育委員会の開催予定日時について諮り、平成23年1月19日（水曜日）、午後2時から開催することを決定した。

6 協議事項（秘密会）

【協議事項11】平成23年度三木市教育の基本方針（社会教育関連部分）について

協議事項11については、三木市教育委員会会議規則第7条第1項ただし書きの規定により秘密会として協議したため、同規則第32条の規定により、その内容については記載しない。

7 閉 会

里見委員長が、平成22年12月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。